＊2011年 9月 1日作成（第2版）
2011年 6月 1日作成（新様式第1版）

承認番号：22300BZX00135000

類　別：　機械器具　21　内臓機能検査用器具
一般的名称：　管理医療機器　特定保守管理医療機器　多項目モニタ　（JMDNｺｰﾄﾞ 33586002）

販売名：　バイタルセンサS　TM-2590

【警告】

- 本装置の周辺での携帯電話、無線機器や、周囲に強い電磁波などが存在する環境で使用する場合はできるだけ離れた位置で使用すること。これらの機器の取扱説明書に従うこと。［装置に誤動作が生じるおそれがあります。］
- 無線機を使用する場合は他の医療用テレメータとの相互干渉に注意して問題がないことを確認すること。

【禁忌・禁止】

- 可燃性の麻酔ガスのある場所での使用は避けること。［引火又は爆発を誘引するおそれがあります。］
- MRIの管理区域内及び高圧酸素療法室内では使用しないこと。［本装置はこれらの環境での使用を想定した設計をされていません。これらの環境で使用すると誤動作や破損、爆発の誘因を引き起こすおそれがあります。］

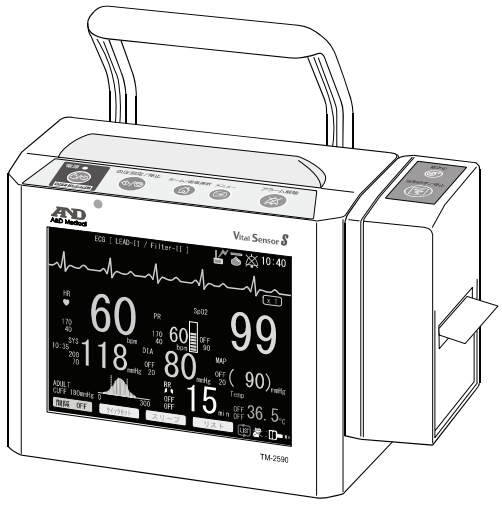
【併用禁忌】

- 人工心肺を使用している被検者には使用しないこと。［血圧測定、動脈血酸素飽和度の測定は心臓のポンプ作用による動脈の脈動を検出して測定しますので、人工心肺による測定はできません。］

【形状・構造及び原理等】

本装置は、被検者の心拍数（脈拍数）、呼吸数、非観血血圧値、動脈血酸素飽和度（SpO2）、体温などの計測値をモニタリングする装置です。オプションとして、プリンタユニット、体温プローブ、無線ユニット、パソコン等への接続のためのオプション（外部I/Fボード）を装着できます。また、バッテリユニット（TM2590-12）を装着することにより、搬送時や電源の無い場所での稼動が可能となります。

型名：TM-2590（オプションプリンタユニット付き）



1. 標準付属品＊

ＡＣアダプタ	1個
ＡＣアダプタ用電源ケーブル	1本
アダルトカフ	1個
エアホース（2m）	1本
エアホース（1.5m）	1本
ECG ケーブル	1本
ECG 中継ケーブル	1本
SpO2 延長ケーブル（ネルコアタイプのみ）	1本
転倒防止スタンド	1個
転倒防止スタンド取付けネジ M4x10	4本
取扱説明書	1冊
添付文書（本書）	1冊
保証書	1冊

2. 外形寸法

転倒防止スタンド、ハンドル未取付け＊
200（W）×165（H）×95（D）［mm］　（プリンタ無）
244（W）×165（H）×95（D）［mm］　（オプションプリンタ有）
転倒防止スタンド、ハンドル付き＊
200（W）×233（H）×150（D）［mm］　（プリンタ無）
244（W）×233（H）×150（D）［mm］　（オプションプリンタ有）
※外形寸法には、ゴム足、突出部は含みません。

3. 質量

プリンタ無　：　約 1.9 kg
プリンタ有　：　約 2.0 kg

4. 作動・動作原理

本装置は、メイン制御部、表示／スイッチ部、シリアル通信部、血圧測定部、SpO2測定部、ECG/Resp測定部、体温測定部、電源部から構成されています。メイン制御部は血圧測定部の制御及び測定値の判定、SpO2測定部、ECG/Resp測定部からの測定値の判定、オプションの体温プローブを使用することにより体温測定部からの測定値の判定を行い、画面表示すると共に、シリアル通信部へ測定データを出力します。又、体温測定部により、オプションの体温プローブからの温度データを受信して表示します。血圧測定はオシロメトリック方式により、圧力センサ回路の出力をマイクロコンピュータ内でデジタルフィルタにより脈圧抽出し、得られた圧脈波トレンドから血圧判定を行います。又、同時に圧脈波信号の間隔から脈拍数を計算します。SpO2測定部はメイン制御部からの条件に基づき動脈血酸素飽和度（SpO2）及び脈拍数を計算し出力します。ECG測定部はECG波形から心拍数を計算し出力します。Resp測定部は、Resp波形から呼吸数を計算し出力します。体温測定部は、体温プローブより体温を計算し出力します。表示部はタッチパネルLCDで、最高血圧、最低血圧、脈拍数、心拍数、呼吸数、SpO2、体温の各測定値の表示、ECG波形、プレシスモグラフ、Resp波形の表示を行います。又、時計、各設定値の表示を行います。RPT（レピュート）機能は、ECGまたはSpO2測定により、心拍数/脈拍数を連続で測定している状態において、前回血圧測定

取扱説明書を必ずご参照ください。

時の脈拍数値に比べ大きく変動している場合に自動的に血圧測定を開始します。

3. アクセサリ/オプション
取扱説明書の「アクセサリ/オプションリスト」参照。

【使用目的、効能又は効果】
[使用目的]

主に被検者の生体情報を持続的に監視する装置で、一般病棟、外来、透析、回復室などで使用されます。

【品目仕様等】
1. 測定項目
非観血血圧(最高、最低、平均)、動脈血酸素飽和度(SpO2)、心拍数(脈拍数)、呼吸数、体温

2. 表示
バックライト付、TFTカラー液晶（6.5インチ）

3. 測定結果表示
- ■ 波形表示　：ECG波形、プレシスモグラフ、Resp波形
- ■ トレース数　：最大3トレース
- ■ トレース方式：ステーショナリトレース
- ■ 測定値表示　：最高･最低･平均血圧、心拍数(脈拍数)、呼吸数、SpO2、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- ■ リスト表示　：最高･最低･平均血圧、心拍数(脈拍数)、呼吸数、SpO2、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- ■ トレンド表示：最高･最低･平均血圧、心拍数(脈拍数)、呼吸数、SpO2、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- ■ フリーズ表示：ECG波形、プレシスモグラフ、Resp波形

※1 但し、体温はオプションの体温プローブ接続時。

※2 RPP(Rate Pressure Product)、SI(Shock Index)は設定により選択。

4. 監視機能
- ■ 最高血圧、最低血圧、平均血圧、心拍数(脈拍数)、SpO2、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- ■ アラーム発生時：測定値･アラームランプの点滅または点等、アラーム音の鳴動。

※1 但し、体温はオプションの体温プローブ接続時。

※2 RPP(Rate Pressure Product)、SI(Shock Index)は設定により選択。

5. 血圧測定
血圧測定方式　：オシロメトリック方式
圧力測定範囲　：0 ～ 300 mmHg
圧力精度　　：±3 mmHg
脈拍測定範囲　：30 ～ 200 bpm（成人）
　　30 ～ 240 bpm（新生児）
脈拍精度　　：±5 %
加圧方式　　：マイクロポンプ
圧力制御方式　：ECEVによる圧力コントロール
急速排気方式　：電磁弁
安全機構　　：圧力リミッタ、測定時間リミッタ、電撃保護の程度
　圧力リミッタ：安全回路が働く圧力。
　　成人／小児：300 ～ 330 mmHg
　　新生児　：150 ～ 165 mmHg
測定時間リミッタ：加圧され続けた場合、安全回路が働くまでの時間。
　　成人／小児：180 秒以内
　　新生児　：90 秒以内
電撃保護の程度：耐除細動BF形
電源遮断　　：電源スイッチがオフされた時あるいは電源が遮断された時、急速排気されます。

6. 血圧インターバル測定
測定間隔　　：OFF、連続、1、2、2.5、3、5、10、15、20、30、60、90、120（分）

ただし、連続測定は、5分間または、12分間（設定により選択）継続後、1分測定は、12分間継続後、2分以上（設定により選択）のインターバルになります。

7. メモリ機能
メモリデータ数　：600
データメモリ間隔：6 秒、12 秒、15 秒、30 秒、1 分、2 分、2.5 分、3 分、5 分、10 分、15 分

8. Sp02測定
測定方式　　：2波長パルスオキシメトリ（日本光電製またはネルコア製)
Sp02測定範囲　：1 ～ 100 %
Sp02測定精度　：±3 %（70 ～100 %）
脈拍数測定範囲　：20 ～ 250 bpm
脈拍測定精度　：±3 %
電撃保護の程度　：耐除細動BF形

9. ECG測定
測定部
　周波数特性　　：設定①　0.05 Hz－ 100 Hz（-3 dB以上）
　　設定②　0.3 Hz － 40 Hz（-3 dB以上）
　　設定③　0.3 Hz － 15 Hz（-3 dB以上）
　心拍数測定範囲　：20 ～ 300 bpm
入力部
　誘導　　：３電極法（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ誘導）
　入力インピーダンス：5 MΩ以上
　電撃保護の程度　：耐除細動CF形

10. 呼吸(Resp)測定
測定方式　　：インピーダンス方式
呼吸数測定範囲　：0 ～ 150 回/分
電撃保護の程度　：耐除細動CF形

11. 体温測定（オプション）
測定方式　　：サーミスタ方式（YSI400シリーズ）
測定範囲　　：25.0 ～ 45.0 ℃
測定精度　　：±0.1 ℃（体温プローブ含まず）
電撃保護の程度　：耐除細動BF形

12. バックアップ機能
時計機能　　：内蔵電池（コインリチウム1次電池）によるバックアップ
メモリデータ　：内蔵電池（コインリチウム1次電池）によるバックアップ
　　不揮発性メモリによるバックアップ

13. 記録(オプション)

プリンタ(TM2590-01)を装着することにより印字が可能となります。

- 波形印字(16秒間):
  ECG波形、プレシスモグラフ、Resp波形
- リスト印字、トレンド印字、グラフ印字:
  最高血圧、最低血圧、平均血圧、脈拍数、SpO2、心拍数、呼吸数、体温(※1)、RPP/SI(※2)

※1 但し、体温はオプションの体温プローブ接続時。
※2 RPP(Rate Pressure Product)、SI(Shock Index)は設定により選択。

14. バッテリ (オプション)

バッテリユニット(TM2590-12)を装着することにより、搬送時や電源の無い場所でも本体を稼動させることが可能となります。

15. リモートモニタ/セントラルモニタ(オプション)

外部I/Fボード(TELE) TM2590-03と、無線機 TM-2140-10を装着することにより、セントラルモニタと無線による通信が可能となります。

- 測定値、監視値送信:最高血圧、最低血圧、平均血圧、脈拍数、SpO2、心拍数、呼吸数、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- 監視値変更 :最高血圧、最低血圧、平均血圧、脈拍数、SpO2、心拍数、呼吸数、体温(※1)、RPP/SI(※2)
- 血圧測定 / 停止
- 血圧インターバル測定間隔変更
- 血圧加圧値変更

※1 但し、体温はオプションの体温プローブ接続時。
※2 RPP(Rate Pressure Product)、SI(Shock Index)は設定により選択。

【操作方法又は使用方法等】

製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ず取扱説明書をお読みください。

1. 使用前の点検

毎日のご使用前に、以下の始業前点検を行ってください。

電源投入前

本体	■ 本体、及び外観が、落下等による変形や破損はないか。 ■ カフ、接続ケーブル等破損はないか。 ■ 汚れがひどくないか。 ■ 濡れていないか。 ■ 電源コードは傷んでいないか。
ACアダプタ	■ 本体のコネクタにしっかりと挿入されているか。 ■ 電源コードの上に重いものを置いていないか。 ■ 電源コードは傷んでいないか。

電源投入後

本体	■ けむりが出たり、変なにおいはないか。 ■ 異常な音が聞こえないか。
時刻の確認	■ 時刻は正しくセットされているか前回値表示等で確認するときや、記録に残す場合、時刻が違っていると、データが不正確となりますので注意が必要です。
アラーム音量	■ アラーム音量が適切な音量となっているか
血圧測定部	■ 被検者の腕の周囲長に合ったカフが準備されているか。 ■ エアホースおよびカフの接続は確実に締まっているか。 ■ カフを腕に巻き、加圧、測定時の異常動作、表示の異常はないか。 ■ エア漏れしていないか。
SpO2測定部	■ SpO2センサを指に当て、ふだんの値が表示されるかSpO2値に疑問を持ったら、新しいSpO2センサに代えて測定値を比較し、差が大きい場合は交換してください。
ECG測定部	■ ECGケーブル線が損傷、断線していないかECG電極を取り付け、心拍、波形が表示されることを確認してください。
Temp測定部	■ Tempプローブ線が損傷、断線していないか測定値が表示されることを確認してください。

上記の「始業前点検」で、時計、アラーム音量等設定がずれている場合、本機の取扱説明書をご参照の上、修正を行ってください。

2. 操作方法

詳細は、取扱説明書を参照してください。

(1) 本装置の電源スイッチを「**入**」にします。
(2) 必要に応じて、各設定値の確認と設定を行います。
設定は、画面上の各操作キーで行います。
(3) 必要に応じて、血圧測定の測定間隔の設定を行います。
(4) 適切なカフを被検者に装着し、血圧開始スイッチを押します。
自動的にポンプが駆動し、血圧の測定を開始します。
(5) ECG電極を被検者に装着し、ECGケーブルを接続します。
心拍数と呼吸数の測定を自動的に始めます。
(6) 必要に応じて、SpO2プローブを被検者に装着します。動脈血酸素飽和度と脈拍数の測定を自動的に始めます。
(7) 画面上の操作キーを押すと、測定結果のリスト、トレンド表示を行うことができます。
(8) 各測定結果はプリンタで印字することができます。
(9) オプションの体温プローブが装着されていると、測定された体温を画面に表示することができます。
(10) オプションの無線ユニットが装着されていると、測定結果を、当社バイタルステーション:TM-2140/TM-2140W、リモートモニタへ表示することができます。
(11) オプションの外部通信ユニットを装着すると、測定結果を他の外部機器等へ送信することができます。

3. 使用の終了

(1) 指定の手順で操作スイッチ等を使用前の状態に戻した後、電源を切ってください。
(2) コード類を取り外すときは無理な力をかけないでください。
(3) 次回使用に支障のないように、機器、付属品等は必ず清掃し、整理保管してください。
(4) 長期間ご使用にならないときは、必ず電源コードを抜いてください。

［カフの装着］

(1) 左腕の準備

- 被検者の左手の手のひらを上に向け、腕を伸ばします。
- カフを巻きつけられるよう左腕を裸腕または薄手の衣服にします。

(2) カフの巻きつけ位置

- カフの上腕動脈（ARTERY）位置マーク▼を上腕動脈線上に合わせます。（ 腕幅のほぼ内側 1/3 位置付近 ）
- カフの巻きつけ位置は、ひじの内側くぼみ(皮膚線）から約 1～2cm の位置に巻きつけます。

メモ

腕の形に沿ってカフが斜めになっても測定値に影響ありません。カフは心臓の右房と同じ高さにします。

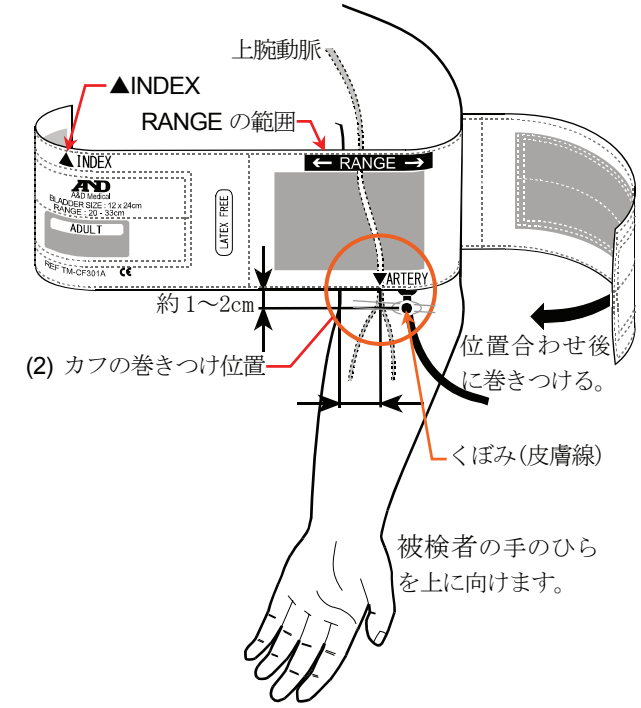
(3) カフの適用サイズの確認

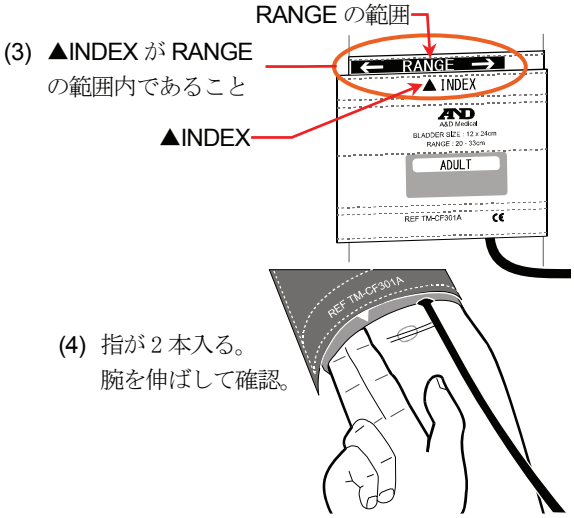
- カフ巻きつけ時の▲INDEX マークが RANGE の範囲内である事を確認してください。

RANGE 外では、血圧値の誤差が大きくなりますので、他の適切なサイズのカフをご使用ください。

(4) 巻きつけ強さの確認

- 巻きつけ強さは、成人用カフで指が 2 本入る程度の固さを目安として、カフを巻きつけてください。





【使用上の注意】

禁忌・禁止

本添付文書 1 ページ赤枠内の項を参照してください。

1. 血圧測定

(1) 測定不能や測定値に疑問を持った時は、まず被検者の状態を確認してください。測定限界を超えるまで容態が悪化していたり、エアホースの屈曲、閉塞も考えられます。

(2) 連続的な不整脈、体動などのノイズが多い場合では、測定できないことがあります。脈波グラフの表示や印字で測定値の信頼度を確認してください。

(3) 体動やショック時の対応をしていますが、測定値に疑問が生じた場合は、他の方法（聴診法・触診法等）で確認してください。

(4) カフが心臓の高さと異なる場合は、血圧値精度に影響します。カフを心臓の高さと同じにして測定してください。

(5) 被検者の腕の周囲長に合ったカフを使用してください。測定に誤差を生じる場合があります。

(6) エアホースを屈曲したまま使用すると、カフに空気が残り、腕の止血による末梢機能障害の原因になります。

(7) 血圧測定を行うことにより､皮下出血を起こすことがあります。この皮下出血は一過性のもので時間とともに消えます。

(8) 外傷の上からカフを巻かないでください。傷口が悪化するだけでなく、衛生面においても感染症を引き起こす原因になります。

(9) 点滴や輸血を行っている腕にカフを巻かないでください。

(10) 被検者が強い痛みを訴えた場合は測定を中止してください。

(11) 下記の場合測定できません。

- 末梢循環不全や著しい低血圧、低体温の時（測定部位の血流が少ないため）。
- 不整脈の頻度の高い被検者。
- 人工心肺を使用している被検者。

(12) 下記の場合、正しく測定できません。

- 心臓マッサージや外部からの微弱な連続的振動（術者のノイズなど）または、被検者のけいれん等による体動があった場合。
- 不適切なカフサイズで測定。
- カフ装着部が心臓の高さと異なる場合。
- 測定中に動いたり話しをした場合。
- 厚手の衣類で測定している場合。
- たくし上げた衣類で腕を圧迫している場合。

(13) ディスポーザブルカフは、一人の被検者に使用1 回限りとして、他の被検者への再使用はしないでください。

2. Sp02測定

フィンガータイプ

(1) カフを巻いている側の腕にセンサを装着すると、測定できない場合や、測定値の信頼性が低くなることがあります。

(2) 成人専用です。他の部位では使用しないでください。短時間のモニタ用です。4時間以上経過したときは装着指を替えてください。かぶれや低温熱傷の原因となります。

(3) センサをテープ等で指に固定することは、絶対に避けてください。うっ血や浮腫の原因になり皮膚の損傷を引き起こすことがあります。

(4) 末梢循環障害のある被検者の場合、低温熱傷に注意してください。

(5) 感染症の被検者に使用したセンサ類は、医療廃棄物として処理するか、十分消毒してから使用してください。

取扱説明書を必ずご参照ください。

フレックスタイプ/ディスポ

(1) 長時間モニタに適していますが、一定時間(8 時間)ごとに、かぶれや低温熱傷が無いことを確認し、異常があれば測定部位を変更してください。
(2) センサの使用時間につきましては、センサ付属の取扱説明書に従ってください。
(3) 極度の外光がある場合には、遮光材でカバーしてください。
(4) テープで固定するときには、うっ血や浮腫防止のため、強く締め付けないように注意してください。
(5) 粘着テープによって皮膚のかぶれや刺激を受けるような場合は、使用を中止してください。また、粘着テープを剥がす際にはご注意ください。
(6) 各オキシセンサの適用被検者体重、測定箇所をお守りください。測定誤差の原因になります。詳細は、センサ付属の取扱説明書に従ってください。
(7) SpO2センサ装着部位は、通常2～3 ℃温度が上昇するため、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。
(8) 以下の被検者については、症状及び程度に応じてセンサの装着部位を頻繁に替えてください。
   □ 高熱の被検者。
   □ 末梢循環不全を起こしている被検者。

■ 下記に該当する被検者の場合は、測定不能または正しく測定できない場合があります。
   □ 血管内に色素が導入されている場合。
   □ 爪にマニキュアが塗られている場合。
   □ 体動がある場合。
   □ センサが強く圧迫されている場合。
   □ 異常ヘモグロビンの量が多すぎる場合。
   □ 電気メスを使用している場合。
   □ CPR 中に測定している場合。
   □ 静脈拍動がある部位で測定している場合。
   □ 脈波が小さい場合。
   □ センサ温度が28～42 ℃の範囲外で測定している場合
■ 測定しない場合は、中継コードのコネクタを抜いてください。使用していないセンサにノイズなどが混入し値を表示することがあります。
■ SpO2のプレシスモグラフや脈波レベル表示を常に監視してください。血管の循環が悪くなっている可能性があります。

3. ECG/Resp測定

■ 安定な心電図を監視するために、電極の貼り付けは確実に良好な状態を保ってください。
■ 貼り付け部位の皮膚の角質層や脂肪分の除去を行ってください。
■ 著しい不整脈の被検者の場合は、心拍数など正しく測定できないことがあります。

4. 脈拍測定

■ 本装置の脈拍数表示、脈音を使用しての除脈、頻脈以外不整脈判断は行わないでください。

5. カフ

■ カフのブラッタはラテックスフリータイプとなっています。

6. RPT(レピュート機能)

■ RPT機能は血圧の変化を完全にとらえるものではありません。以下の場合はRPT機能によるNIBP測定が起動できないか、頻回に起動するため、被検者の状態を確認してから使用してください。
   □ 末梢循環不全により安定した脈拍が得られない被検者。
   □ 不整脈の頻度が高い被検者。
   □ 被検者に体動がある場合、及び体位を変えた場合。
   □ 血管作動薬(ファニレフリンやニカルジピンなど)の投与により、血管反射を伴うような急激な血圧変化が起こった場合。
   □ 電気メスを併用する場合。

7. 重要な基本的注意

■ 装置本体について
   □ ＡＣアダプタは、必ず付属の専用品を使用してください。電源コードは、必ず付属の３ピンプラグ付き電源コードを使用し、アース付きコンセントに差し込んでください。
   □ 全てのコードが、正しく接続されていることを確認してください。
   □ 機器全般及び被検者に異常のないことを絶えず監視してください。
   □ 機器及び被検者に異常が発見された場合には、被検者に安全な状態で機器の作動を止める等適切な措置を講じてください。
   □ 機器の併用は正確な診断を誤らせたり、危険をおこすおそれがあるので、接続の際は再点検してください。
   □ 他の医療用テレメータとの相互干渉に注意して、問題がないことを確認してください。
■ アラームについて
   □ 上下限アラームをOFFとした項目については、アラームは発生しません。OFFに設定する場合は、目視にて頻繁に被検者の状態を確認してください。
   □ 本装置を使用してモニタする被検者が変わった場合は、被検者にあったアラーム条件に設定し直してください。

8. 他の装置との接続

■ 本装置に周辺装置を接続する場合は、事前に当社までお問い合わせください。
■ 複数のME機器を併用する場合は、機器間に電位差が生じないように等電位接続してください。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

［保管方法］

下記の使用環境、保管場所でご使用ください。

■ 水のかからない場所。
■ 高温、多湿にならない場所、直射日光の当たらない場所、ほこりの少ない場所、および塩分、イオウ分などを含んだ空気にさらされない場所。
■ 傾斜、振動、衝撃等のない安定した場所。
■ 化学薬品やガスの発生のない場所。

使用環境条件 温度範囲 ： +10 ～ +40 ℃
湿度範囲 ： 30 ～ 85 %RH（結露なきこと）
気圧範囲 ： 70 ～ 107 kPa
保存環境条件 温度範囲 ： -20 ～ +60 ℃
湿度範囲 ： 20 ～ 95 %RH（結露なきこと）
気圧範囲 ： 70 ～ 107 kPa

■ ECG電極を保管する場合は、高温、多湿、直射日光を避け、指定の環境下で指定の環境下で保管してください。(電極が乾燥すると皮膚と電極間の接触抵抗が上昇し、正しく測定できない場合があります。)

取扱説明書を必ずご参照ください。

［耐用期間］

■ 設置後6年(当社データによる自己認証)
ただし、これは正規の保守点検などの推奨された環境で使用された場合で、使用状況により差異が生じることがあります。

【保守・点検に係わる事項】

［注意事項］

■ お手入れの際は感電防止のため、本装置の電源スイッチを切りコンセントからプラグを抜いてください。
■ 本装置の分解、及び改造はしないでください。
■ 機器に水をかけたり、水につけての清掃は絶対行わないでください。
■ 本装置の殺菌に際してオートクレーブ、ガス滅菌（EOG、ホルムアルデヒドガス、高濃度オゾンなど）を使用しないでください。
■ シンナー、ベンジンなどの溶剤を用いて清掃しないでください。
■ しばらく使用しなかった機器を再使用するときは、使用前に必ず機器が正常にかつ安全に作動することを確認してください。
■ 機器の清掃は病院の定めた方針や手順をもとに、1ヶ月に1回程度、以下のように行ってください。

本体

機器外装の汚れは、柔らかい布で乾拭きしてください。清掃するときは、水にうすめた中性洗剤又は、消毒用アルコールを使用してください。血液、薬剤、汚物などが付着した時は、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で清拭し、除去してください。

カフ

消毒する時は、肌に接する面の布を消毒用アルコールで清拭してください。カフを洗浄しての再使用はできません。

［点検項目］

装置を正しくお使い頂くために、定期点検を実施してください。
定期点検の主な内容は以下の通りです。

＜電源投入前＞

項目	内容
外観	落下等による変形、破損がないこと。
	各部の汚れ、サビ、キズがないこと。
	パネル類の割れやガタつきがないこと。
	濡れていないこと。
操作部	スイッチ、ボタン類の破損、ガタつきがないこと。
表示部	画面の汚れ、キズがないこと。
測定部(カフ)	カフ、接続ケーブル等破損がないこと。
	カフ内のブラッダ(空気袋)の状態は異常がないこと(よじれ、折れ曲がりなど)。
記録部	プリンタ用紙が、指定品であること。
電源部	電源コードの破損がないこと。
	本体のコネクタにしっかりと挿入されていること。
	ＡＣアダプタと電源コードの接続が確実に挿入されていること。

＜電源投入後＞

項目	内容
外観	けむりが出たり、変なにおいがないこと。
	異常な音がしないこと。
表示部	液晶表示装置の極端なドット欠けがないこと。
	血圧、脈拍、時計表示部の数欠けがないこと。
	アラームランプが点灯すること。
	アラーム音と音量が適正か確認すること。
	エラーコードの表示が出ていないこと(待機状態)。
操作部	スイッチ、ボタン類の動作に異常がないこと。 スタート/ストップ動作に異常がないこと。
測定部	カフを腕に巻き、血圧測定値が普段の値に近いことを確認すること。
	SpO2センサを装着し、プレシスモグラフと測定値が普段の値に近いことを確認すること。
	体温プローブを装着し、測定値が普段の値に近いことを確認すること。
	ECG波形、HR表示に異常ないこと。
データ処理	測定値の表示部に数字欠けがないこと。
記録部	記録紙の有無と紙切を検出すること。
	プリンタ用紙が正しく紙送りされること。
	テスト印刷による印字欠けがないこと。
バックアップ機能	カレンダ時計の確認を行い日時が正しいこと。
圧力確認	点検方法は取扱説明書参照。
バッテリ充電(装着機種の場合)	電池使用にして、十分に充電されていること。 充電しても電池での動作時間が極端に短くなった場合、電池の交換が必要です。

【包装】

本体／付属部品：紙製ダンボール梱包 1台／箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者 ：株式会社エー・アンド・デイ
〒364-8585 埼玉県北本市朝日 1-243
電話番号：048-593-1434

お問い合わせ先：株式会社エー・アンド・デイ
ME 機器相談センター
電話番号：0120-707-188

修理品受付先 ：〒507-0054 岐阜県多治見市宝町 9-19
株式会社エー・アンド・デイ
ME 事業本部ＦＥ課
電話番号：0572-21-6644

製造業者 ：研精工業株式会社

取扱説明書を必ずご参照ください。